

コメディリック第4回「この振る舞いを見る」

「強欲の部屋く振る舞いの館・エピソード4」

登場人物

齋藤 野彦

高木 ペイリー・チャイルド

白石 シロスコフ

【L・明転】

※齋藤、登場

齋藤、転がって現れる。あるはずのないトランシーバーを使いそれぞれに呼び掛ける

齋藤

「こちら、齋藤。どうぞ。…高木、聞こえるか？どうぞ。…白石？吉田？どうぞ…ふー。やれやれ。飛んだミツシヨンになったな。どうぞ」

【SE・ナレ】

ナレ

「ここは『強欲の部屋』欲に負けることなく、高潔な精神を保ち続けた者のみが部屋を出ることを許される」

齋藤

「(ナレの最中に)なんだ？なんだ？…欲に負ける？ふん。俺が欲に溺れて、自分を見失うわけがないだろ」

【L・暗転】

齋藤

「ふはははははははは！」

【L・明転】

齋藤

「この世は全て俺のモノだー！愚民どもがひざまずけー！おい女！こっちへ来い！…おいお前もだ！女！女！ふははははは！そうだ！新しい法律を決めよう！『呼んだら女がすぐ来る！』齋藤憲法第1条『呼んだら女がすぐ来る！』だ！ふははははは！…おい！ありったけのハーゲンダッツを持ってこい！カチカチのままで！俺はカチカチのまま食うのが好きなんだ！齋藤憲法第2条『ハーゲンダッツは常にカチカチ！』ふははははは！守らなかつたものは死刑だ！死刑！よし女変われ！その女来い！どうだ？かっこいいだろ？俺は！よし法律にするぞ！齋藤憲法第3条『俺が一番かっこいい！』だ！いいか俺が一番かっこいいんだ！そうだ！良い事を思いついた！国民を今すぐ集める！皆でケイドロをやるうじゃないか！」

※高木、登場

高木 「おい！齋藤！何やってんだ！早く行くぞ！」

齋藤 「誰だお前は！」

高木 「何を言ってるんだよ！齋藤！」

齋藤 「気安く話しかけるな！我はこの齋藤国の大王…齋藤大王だぞ！」

高木 「そのままじゃねえかよ！」

齋藤 「お前の相手なんか誰がするか！女！女をよこせ！」

高木 「こいつ…完全に試練に負けてやがる…」

齋藤 「俺が思いつく前に女とか酒とか色々用意されてあれ！」

高木 「おい。齋藤。行くぞ」

齋藤 「齋藤憲法第4条！『お前の相手をしない！』だ！」

高木 「何を言ってるんだ。行くぞ」

応答しない齋藤

高木 「おい齋藤。齋藤」

応答しない齋藤

高木 「齋藤！」

齋藤 「死刑だ！死刑にしろ！」
高木 「いい加減にしろ！この馬鹿！ブス！」

※白石、登場

泣きながら現れる白石

高木 「白石！」

めちゃくちゃ泣いてる白石

高木 「どうした？大丈夫か？」

白石 「お前らのために…幸せ捨ててきた…！」

高木 「おお。そう」

齋藤 「なんだお前ら！いい加減にしろ！去れ！齋藤国から立ち去れ！」

白石 「なにこれ…」

齋藤 「齋藤国は女以外鎖国だ鎖国！」

白石 「なにこの世界観…」

高木 「こいつ、なんか試練？みたいな感じのことにかけて」

白石 「てめー！齋藤！この野郎！俺が俺がどんな気持ちで！」

掴みかかる白石

齋藤 「触るな！女以外我に触るな！」
白石 「現実を見ろー！」
高木 「やめろ。やめろって」
齋藤 「死刑だ！早く死刑にしろ！」
白石 「こいつ…本気でいっちゃまってる」
高木 「あー…齋藤大王様」
齋藤 「頭が高い。ひれ伏せ」
高木 「…齋藤大王様。齋藤大王様は齋藤国の大王様であられますよね？」
齋藤 「いかにも私が齋藤国の大王。齋藤大王だ」
高木 「一国の王で満足ですか？」
齋藤 「どういうことだ？」
高木 「世界を手に入れようとは思われませんか？」
齋藤 「どういうことだ？」
高木 「この世界を齋藤世界にしてみようとは思われませんか？」
齋藤 「齋藤世界？」
高木 「はい。齋藤大王様の世界観で形成される新たな世界。齋藤世界。それはもう齋藤大王様のためのユートピアとなりましよう」

齋藤 「余の世界観で作る新たな世界…齋藤世界…気に入った。気に入ったぞ」
白石 「気に入っちゃった」
齋藤 「齋藤世界観第1景『齋藤世界を作るのだ！』」
高木 「それではこんな狭い場所にはいられません。我々と共に参りましよう」
齋藤 「うむ」
高木 「まずはレゴブロックで練習しましよう」
齋藤 「齋藤世界観第2景『レゴブロックで練習する』」
齋藤 ※齋藤、はける
白石 「欲って恐ろしいな」
高木 「行くぞ。とりあえず吉田も見つけないと」
白石 「うん」
白石 ※白石、高木、はける
【し・暗転】
—了—